

子どもの豊かな感性を育む製作遊び

—HARU 研究によるマスキングテープを使用した実践事例—

田中 るみこ(教育学部)

Production play that nurture children' s rich sensibilities

-Practical examples using masking tape from HARU research-

Rumiko Tanaka

1. 問題と目的

(1) 本研究の経緯

本研究は、2019年から研究を開始した4年目の研究である。この研究期間に研究協力園（保育園3・幼稚園2）は福岡県で4園、東京都で1園になった。研究協力園は、HARU研究のマスキングテープを使用し、環境構成として園舎や保育室を装飾し、保育教材として様々な取り組みを実施してきた。田中（2022）⁽¹⁾は保育教材のマスキングテープの使用について、「保育教材の使い易さについては、「とても当てはまる」、「少し当てはまる」6/6人（100%）の回答であった」と述べており、成果を示してきた。しかしながら、課題として本研究関連の先行研究はワークシート作成したモデルケースが少なかったことが上げられていた。

本研究では、研究協力園と連携し、モデルケースの提示数を増加し、保育者が作成したワークシートを元に、保育教材としてのマスキングテープの可能性を検討する。

(2) HARU研究のマスキングテープとは

本研究のHARU研究のマスキングテープとは、主に和紙素材（日本の和紙素材、指でちぎることができ、マットな質感と和紙ならではの透け感があり、ほかの色の上に貼ることで色の重ね合わせが可能）やPET（床用表示テープをベースに開発された、ツヤと光沢があるグロス素材。剥がれにくさと強度を保ち、糊残りなく剥がせる粘着性がある）を使用したマスキングテープのことであり、一般的なサイズ（1.5cm）とは異なり、サイズは5cm、15cm、30cm、60cmと幅が広いものである⁽²⁾。HARU研究のマスキングテープについて田中（2022）⁽¹⁾は、「日常生活の中で使用頻度は少なく、子どもたちが日常的な遊びの中で触れる機会はほとんどないものである」と述べており、その教材を通して、保育者がどのよ

うな製作遊びに変化させていくのか期待したい。

(3) 子どもの豊かな感性を育むとは

保育所保育指針・幼稚園教育要領の改定により示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中で「豊かな感性と表現」については、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」⁽³⁾と示されている。このことから、子どもの感性はその子らしい表現方法を育てるためには、まずは一人ひとりの「感じ方」に向き合い、認めていくことが大切である。そのため、子どもは一人一人違い、楽しい面白いと感じることも違うということも理解する必要がある。

子どもの感性は、一人一人の個性や環境によって様々なものである。子どもは生活や遊びの中で五感を通して楽しさや出来事を感じ取っている。その行動は「子どもが主体的に考え、表現すること」につながっており、その過程が子どもの感性を豊かにすることを示している。子どもが心を動かす出来事などに触れ、感性を働かせる中で、様々な素材や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現することは子どもの感性の発達において重要である。また、表現する過程を友達や保育者と共有し、表現する喜びを味わうことで意欲をもつようになる。本研究においては、新しい保育教材としてマスキングテープを使用し、子どもの感性を育むためにどのような製作遊びを実施したのか報告する。

(4) 本研究の目的

本研究はHARU研究のマスキングテープを使用した、製作遊びを保育者のワークシートを元に製作物の実践事例を報告する。また、実際に使用した保育者のワークシートから、HARU研究のマスキングテープの豊かな感性を育む製作遊びの有用性を検討する。

2. 方法

HARU 研究に賛同いただいた保育園や幼稚園の保護者（教職員含む）へ子どもの個人のプライバシーを保護するため、データは研究対象者の匿名化番号として記録した。データ管理は写真、研究年月日等の必要事項に匿名化加工情報を行い、個人情報保護の問題を回避するように十分に配慮した。研究で知り得た情報は本研究以外で使用しないことに同意を得ている。

【対象】

福岡市内の A 保育園, B 幼稚園, C 幼稚園の保育者 20 名

【研究実施期間】

20XX 年 4 月～20XX 年 12 月

【ワークシート作成期間】

20XX 年 4 月～20XX 年 12 月

【ワークシートの項目】

保育者記入: 実施日, クラス名 (学年), ねらい, 製作物, 材料, マスキングテープの使用法, 製作物の写真 (2 枚以上), 感想とした。筆者は考察 (コメント) を記入した。

3. 実践事例

保育中の遊びの中でマスキングテープを使用した、活動内容 1～4 の実践事例を報告する。

【活動内容 1: 木を作成し、子ども達の製作物を飾る】

図 1 参照

実施日: 20XX 年 6 月

クラス (学年): 0 歳児

製作物: 壁に木を作り, 子ども達の製作物を飾る。マスキングテープを重ねて貼り合わせて, 文字を書き, 展示する。

ねらい: 子ども達の作品を展示する際の環境として木を製作する。

材料: マスキングテープ, はさみ, マジックペン, 画用紙, 絵具

マスキングテープの使用法: 貼る, 重ねる

感想 (保育者): 壁が華やかになり, 子ども達の作品も一段と引き立つようになった。貼って剥がせるというマスキングテープの特性をうまく利用できたと思う。色画用紙では表現できない作品となった。

考察 (筆者): 「そよかぜさんの木 (気) になる色」のテーマは子どもの発想を豊かにする題目であり, 子どもが「どんな色にしよう」と考えを巡らせるのではないかと考える。題目のマスキングテープは黄色とピンク色の 2 色使用を行い, 貼り方も斜めにして工夫がみられる。

木は茶色系のマスキングテープを 2 色使用し, 下から上に向けて細くなり, 遠近感があるように感じられる。また, 葉は黄色, 黄緑, 緑など緑系の様々なマスキング



図 1.
木を作成し, 子ども達の製作物を貼る

テープを真っすぐに大小異なるように切り, 草むらを作成していた。非常にシンプルであるが, 切り方を工夫することで平面が立体的に見ることができると考えられる。子ども達の作品は, 絵具で葉の色を自由に塗ったり, 手形や足型を自由に貼る楽しい作品になったと思われる。

【活動内容 2: 水族館を作ろう】

図 2 参照

実施日: 20XX 年 7 月

クラス (学年): 3, 4, 5 歳児

製作物: 階段に水族館を作ろう

ねらい: 屋上にプールを設置しているが, 毎年屋上から階段を降りる際, 走ったり, 危ない滑り方をする子どもが多かった。今回, 環境構成として, 子どもたちとボディペインティングで使用した紙を使って水族館を作り, 階段を走りたくないような環境を整えた。

材料: マスキングテープ, はさみ, ビニールテープ, スズランテープ, ビニール, 折り紙, 事前し製作したボディペインティングで使用した紙, マジックペン

マスキングテープの使用法: 貼る, 重ねる

感想 (保育者): 子ども達は階段に展示してある自分の作品を探し, 友達や保護者に知らせる姿があった。また, 風が入るとスズランテープやビニールなどの素材が揺れて, 本物の海の中にいるような作品になった。

考察 (筆者): 屋上への階段には子ども達の製作した海の生き物達で溢れており, 自分や友達の作品を見ながら階段を上り下りすることができる。中には大きな魚や不思議な海の生き物達を見ることで, 今までは走ったり, 素通りしていた階段をゆっくり上り下りしている。マスキングテープは, 青色, 水色を中心にビニールテープやビニールを使用し, 海水の色をイメージしている。曲線ではなく, 直線的に表現することで, 急な階段やシャープな印象を与えている。



図 2. 水族館を作ろう

また、海藻をイメージしたビニールも上から垂れ下げており、異空間が表現されている。魚は事前に製作したボディペインティングの紙を使用し、沢山の色が表現されており、魚の尾はビニールテープなどで動きも出るように工夫されている。園内に風が通ると、更に雰囲気が増し、子ども達は海の中にいるような異空間を感じることができると考えられる。

【活動内容 3：線路を作ろう】

図 3 参照

実施日：20XX 年 5 月

クラス（学年）：1 歳児

製作物：床に線路を作る

ねらい：車に興味を持っている子どもが多く、子ども達がダイナミックに遊ぶように線路を作る。また、トイレまでの導線を作り、トイレへの関心を高める。

材料：マスキングテープ、はさみ

感想（保育者）：電車を床の線路で思いっきり走らせ遊ぶことができよかった。また、電車だけでなく、自分達も電車になりきって遊んだり、線路の先がトイレだったり…とまだ定着していなかった排泄への取り組みを楽しみながら行うことができた。

考察（筆者）：グレーに近い様々な色のマスキングテープを使用して、線路をイメージして作成しており、線路も真っすぐ、曲がったものなど子どもの導線を上手に示している。このマスキングテープは和紙タイプのもので、床に貼っても子どもは滑りにくいものであり、床の塗料やワックスも剥げないために糊残りが無い。線路は子ど



図 3. 線路を作ろう

もが順番を待つ目印にもなり、等間隔を 1m にするとソーシャルディスタンスの空間配慮も自然にできるのではないかと考える。この作品は、子ども達が日常遊びを行う中で、楽しく順番を待つことができる作品である。応用として、壁や天井にも貼れるため、子どもの保育に合わせた環境構成を更に変化していくことも可能である。

【活動内容 4：クリスマスツリーを作ろう】

図 4 参照

実施日：20XX 年 12 月

クラス（学年）：3, 4, 5 歳児

製作物：部屋にクリスマスツリーを飾ろう

ねらい：部屋の窓にクリスマスツリー（アドベントカレンダー）を作り、クリスマスを待ちわびにする

材料：マスキングテープ、はさみ、紙袋、折り紙、シール

感想（保育者）：自分達だけのクリスマスツリーが出来上がるのを友達と話しながら、期待を持って作り上げていた。今回は当初の図 4 上のマスキングテープの模様にしてしたが、子ども達からプレゼントは…もっとパーティーにしたいとの要望が出始め、子ども達と一緒に図 4 下のよう仕上げた。

考察（筆者）：クリスマスは子どもたちにとって、大変楽しいイベントである。アドベントカレンダーはクリスマスまでのカウントダウンをするカレンダーで、子ども達は楽しみながら、カレンダーを捲っていく。子ども達の要望通りにパーティーのように華やかな作品になっていると考えられる。クリスマスに相応しい雰囲気やプレゼントや旗など、溢れている作品となった。日常生活の中で使用している「窓」がクリスマスの特別な空間になったと考える。

子ども達は自分達で作った作品を毎日眺めながら、楽しい気持ちになるであろうと考える。毎年の年行事であるクリスマスツリーなどの製作は、マスキングテープは毎年貼って剥がせる素材のため、その年の一期一会の作品が出来上がることができる。



図 4. クリスマスツリーを作ろう

【活動内容 5：ツマグロヒョウモンの飼育部屋】

図 5 参照

実施日：20XX 年 11 月～12 月

クラス（学年）：3, 4, 5 歳児

製作物：ツマグロヒョウモンの飼育部屋

ねらい：ツマグロヒョウモンの飼育部屋を自分達で作り、子ども達にとって愛着深いものにする。

材料：マスキングテープ、段ボール、すのこ、はさみ、キャスター、ビニール、色画用紙、折り紙

感想（保育者）：本来飼育ケースで観察していましたが、違う友達とその飼育ケースをめぐっていざこざになったため、自分達で作ろうと保育者と一緒に作り始めました。次第に「さなぎ」から「チョウ」へなるに連れ、もつと大きな部屋の方がいいのでは…と更に大きく段ボールで増築していきました。その際、マスキングテープも貼ることで色鮮やかになり、丈夫になりました。

考察（筆者）：ツマグロヒョウモンはチョウ目タテハチュウ科のチョウである。最初は1つの段ボールだった飼育小屋も、チョウが変化するたびに増築し、3階建てとなった。外から観察できるように透明のビニールで観察できる窓やドアが設置されている。マスキングテープを使用すると、カラフルな色で補強されるため、丈夫な飼育小屋になったと考えられる。また、子ども達はチョウが



図 5. ツマグロヒョウモンの飼育部屋

過ごしやすいようにチョウの休憩場所（色画用紙などをお部屋に入れてとまりやすく工夫するなど）など作成した。自分達が飼育小屋を作ることで益々、ツマグロヒョウモンへの愛着が増したのではないかと考える。

4. まとめ

(1) 保育教材としてのマスキングテープの有用性

本研究はマスキングテープを使用した製作を協力園の保育者の協力の元を実施してきた。保育者が記入したワークシートを見ると、製作の過程やねらいが理解することができ、作品の意図や再現性も具体的に明らかになっている。製作の中で子どもの感性を表現した作品がいくつも見られており、図 2 では、子どもが自分や友達作品を紹介したり、鑑賞することでイメージを共有し様々な表現を楽しむ様子が見られた。さらに図 4 や図 5 のように子ども達の自発的な主体性を持った活動にもつながっており、自分なりに表現して楽しむ様子が伺えた。また、その他の活動として、マスキングテープを使用した作品を資料（図 6）として示す。

田中（2022）⁽⁴⁾ は、先行研究の中で「保育室や園舎という子どもが日常多くの時間を過ごす空間を保育者と一緒に装飾し、自ら作り上げていくことができたという達成感や充実感を持つことができたことから、子どもが自らの作品掲示のなかで保育活動を行うことは自己存在感を高める効果につながるのではないかと予想される」と述べている。本研究においても、子どもと保育者が一緒に製作し、日常生活の中で主体的に製作した作品に囲まれて過ごすことで、生活の中でイメージを豊かにし、自らの存在を実感したと考えられる。

また、田中（2022）⁽⁴⁾ は、「マスキングテープは気軽に貼って剥がせる性質があり、保育環境を整える一つの方法として提示することも一案である」と述べている。本研究においても、図 1, 2, 4 のように季節ごとに、貼り換えが自由にでき、壁や窓ガラスにも後残りがなく、貼って剥がせることから、保育教材としてマスキングテープの有効性があると言える。

【作品資料】

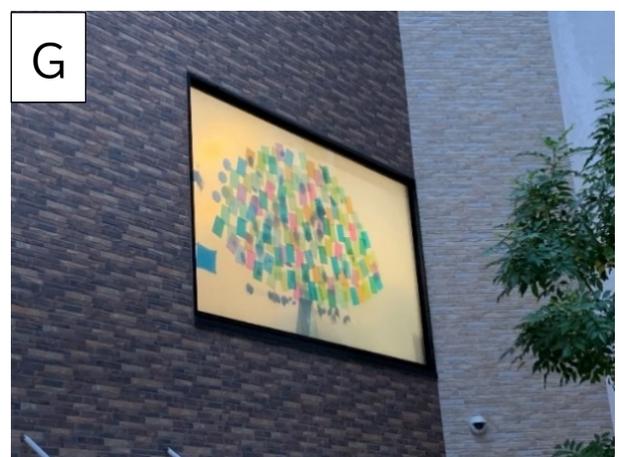


図6. マスキングテープを使用した保育教材 (写真)

A: 恐竜 B: 水鉄砲 C: 歯磨き君 D: カラフルBOX E: カラフルおもちゃ F: クリスマスツリー G: ツリー (外観)

(2) 今後の課題

マスキングテープは、貼って剥がせる素材として、これまで述べてきた。しかし、マスキングテープの種類によっては、和紙タイプのもののははさみで切りにくく、PET タイプのものは手でちぎりにくい性質があった。これは、製作の方法や過程において、様々視点から、素材を注意深く確認し、子ども達の活動内容のどこに重点を置くべきかを検討する必要がある。

今後の課題としては、保育者に合わせて、さらに詳細なワークシートを作成していく必要がある。製作手順や子ども達の声掛け、導入などを明らかにすることで HARU 研究のマスキングテープの製作遊びのレポーターが記録として残ることができる。また、アンケート調査やインタビュー調査を実施し、作品について子ども達に直接インタビューできる機会を持つことも検討していきたい。

今後の発展としては、これまで述べてきたように保育教材としてのマスキングテープの有効性から、対象を子どもと保護者の親子のワークショップに活動を広げ、新しい保育としての可能性を高めていきたいと考える。保育園や幼稚園に通園する子ども達の活動だけではなく、マスキングテープの利点として、手を汚さずに製作ができることから、入院中の管理下の厳しい子ども達が自由に遊べる素材の一つとして製作遊びや病室の装飾を提案することも検討していきたい。

謝辞

本研究において、研究に協力いただいた、学校法人中村学園大学附属壱岐幼稚園、社会福祉法人協愛福祉会ひなたの風保育園、学校法人松栄学園ふくはま幼稚園の子ども達、保育者の先生方に感謝申し上げます。また、研究協力並びに沢山の物品を提供いただきました株式会社ニトムズの西隆之氏、篠崎和歌子氏に感謝いたします。

本研究は北海道大学 COI 「食と健康の達人」拠点の産学連携の関連研究である。

引用・参考文献

田中るみこ、林希、山崎幹子、久保綾香、井上歩美、鈴木美羽、石橋和文、山田朋子、圓入智仁、産学連携 HARU 研究による HARU stuck-on-design を使用した教材研究の実践報告—アンケートとワークシートを活用した保育教材の試み—。中村学園教職教育研究. 第 6 号, pp38-39. 2022.

田中るみこ、圓入智仁、産学連携 HARU 研究 HARU stuck-on-design 保育環境・保育教材の開発, 日本保育学会 第 73 回研究発表会, p. 96. 2020.

保育所保育指針解説, 厚生労働省, p. 267.

田中るみこ、産学連携 HARU 研究による HARU stuck-on-

design を使用した保育環境・保育教材の開発—保護者と保育者へのアンケート調査—, 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 第 54 号, 2022.